平成19年度　全国学力・学習状況調査　指導改善資料

知識や技能を活用する力を育成するために

～ 授 業 改 善 へ の ア プ ロ ー チ ～

◆ ◆ ◆ 小学校国語科 ◆ ◆ ◆

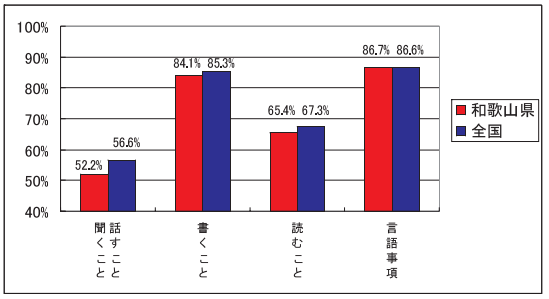
結果概要

■国語Ａ（主として「知識」に関する問題）

◇本県の小学第６学年の平均正答率は８１.１％（全国平均　８１.７％）です。

◇相当数の児童が今回出題している学習内容を概ね身に付けていると考えられます。

◆「話すこと・聞くこと」「読むこと」に課題があります。



【話すこと・聞くこと】

◆スピーチでの聞き手に分かりやすい話し方を選択する問題は、正答率が５０％以下です。

◆インタビューのメモの工夫を選択する問題は、正答率が５０％台です。話し方に関する知識や聞き方に関する知識の理解に課題があります。

【読むこと】

◆物語の一部を読んで、登場人物の心情として適切なものを選択する問題は、正答率が６０％台です。物語の登場人物の関係を押さえて心情を把握することに課題があります。

【言語事項】

◆文の構成を理解し、１文を２文に書き換える問題の正答率は５０％台です。

◆漢字の書きについては正答率にばらつきがあり、特に書き「相談」の正答率が５０％台でした。

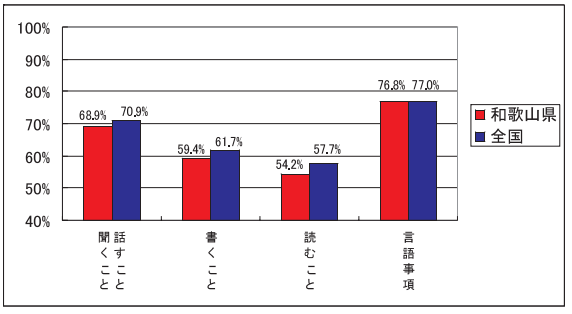
■国語Ｂ（主として「活用」に関する問題）

◆本県の小学第６学年の平均正答率は５９.０％（全国平均６２.０％）です。

◆知識・技能を活用する力に課題があります。

◆記述式問題の平均無解答率（無答率）は、１２.５％（全国平均１０.４％）です。

◆「書くこと」「読むこと」に課題があります。



【書くこと】

◆古紙の再生利用が重要な課題となってきた理由を書く問題の正答率は、４０％台です。取り上げた事実が、どのような理由で述べられているかについて的確に読み、その理由を要約することに課題があります。

◆古紙を回収に出すときに守ることを新聞に書く問題の正答率は５０％以下、無解答率（無答率）は約１４％です。情報の中から必要な事柄を取り出して、目的や条件に応じて書き換えることに課題があります。

【読むこと】

◆グラフを読み取り、文章中の空欄に適切な数字をあてはめる問題の正答率は、６０％以下です。文章の内容と資料の数値などとを関係付けて正しく読むことに課題があります。

◆同じ本を読んで書いた２人の感想文から、共通する書き方の良いところを二つ書く問題の正答率は、ともに５０％以下です。二つの文章の良さや工夫を評価し、自分の考えをまとめることに課題があります。

◇…相当数の児童ができている点　　◆…課題のある点

和歌山県検証改善委員会・和歌山県教育委員会

指導改善のポイントと具体的アプローチ

指導改善のポイント

■国語Ａ

①話し方や聞き方に関する知識
（ 6 7 ）

○話す・聞く活動の充実
聞き手の反応を見ながら話したり、メモをとりながら聞いたりする活動を取り入れ、話す知識・技能を定着させる指導が大切です。

②登場人物の関係を押さえて心情を把握すること （ 10 ）

○心情や性格を把握する指導の工夫
登場人物相互の関係を押さえながら、その心情や性格、考え方などをとらえるようにする言語活動の充実を図る必要があります。

③文の構成を理解し、書き換えること （ 5 ）

○条件に即して書く指導の工夫
文の構成の理解のため、２つの内容を１文にまとめたり、１文を内容ごとに分けて書き換えたりする言語活動の充実が求められます。

■国語Ｂ

知識や技能を活用する力、記述式問題に課題があります！

①説明文で述べている事柄の理由を要約すること（ 2 二 ）

②資料から必要な事柄を取り出して、与えられた条件に即して書き換えること
（ 2 三（１） ）

○条件に即して書く指導の充実
文章を要約したり、字数や様式などの与えられた条件に即して書き換えたりする言語活動を多く取り入れるなどの指導の充実を図ることが必要です。

③文章の内容と資料の情報を関係付けて正しく読み取ること
（ 2 一 ）

④二つの文章の共通点を評価し、自分の考えをまとめること
（ 3 （１）（２） ）

○多様なテキストを読む指導の充実
・文章とグラフ・図などを含む題材を取り上げ、文章の内容と資料の情報とを関係付けながら的確に読む言語活動の充実を図ることが必要です。
・複数の文章や資料を取り上げ、観点を設定して比べて読む言語活動の充実が求められます。

（　　）は問題の番号を表します。

課題が明らかになった知識や技能を活用する力

○説明文で述べている事柄の理由を要約する力
○資料から必要な事柄を取り出して、与えられた条件に即して書き換える力
○文章の内容と資料の情報を関係付けて正しく読み取る力
○二つの文章の共通点を評価し、自分の考えをまとめる力

これらは、**ＰＩＳＡ型「読解力」**と大きく重なると考え、
本県では、**ＰＩＳＡ型「読解力」育成のための取組**を進めています。
年度末に**「ＰＩＳＡ型読解力向上のための実践指導資料集」**（仮称）を各学校に配布する予定です。

◆ ◆　ＰＩＳＡ型「読解力」育成のための指導改善の視点　◆ ◆

① 教科書教材の精読
② 教師主導の一斉授業
③ 教師と子どもの一問一答
④ 憶測による心情や内容の理解
⑤ 教材の無批判な受容
⑥ 体験と感想を基にした表現

→

① **多様な文字資料**の活用
② **子ども主導**の協同学習
③ 子ども同士の**討論**
④ 推論による表現意図の**解釈**
⑤ 教材の**評価と批判**
⑥ **読解を根拠にした表現**

国立教育政策研究所　有元秀文総括研究官による

具体的アプローチ１　授業を変えるには、まず発問から！

○子どもの興味・関心を引きつける問い
○教材の本質の理解にせまる問い
○教材文に必ず根拠がある問い
○何を答えたらよいかがだれにもわかる明確な問い
○全体を読まなければ答えられない大づかみな問い
○個性や創造性を発揮した多様な答えを求める問い

《　発問の具体例　》（第４学年「ごんぎつね」を扱う場合）

例１「ごんはうなぎを取ったつぐないにどんなことをしましたか。また、それを兵十はどう思っていましたか。」**【情報の取り出し】**
例２「兵十はなぜ『ひなわじゅうをばたりと取り落とした』のですか。」**【解釈】**
例３「ごんが死んでしまう終わり方に賛成ですか、反対ですか。それはなぜですか。」**【熟考・評価】**

具体的アプローチ２　根拠を明確にして書き、話し合うことを！

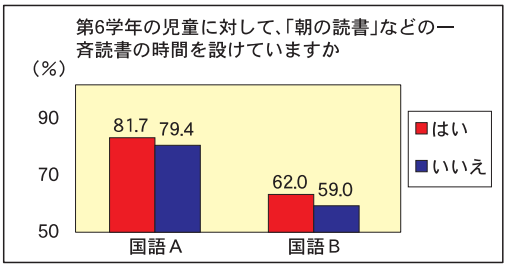
児童が話し合い、課題を解決していく時間を十分に確保することが大事です。そのためには、ワークシートを利用したグループ学習を導入することが有効です。

ワークシート作成にあたっての注意点
・はじめに課題に対する考えを書き、次にその根拠を書くようにする。
・根拠は、必ず教材本文からあげるようにする。

考えをワークシートに書くことで、発表も根拠を明確にした論理的なものになります。グループ討議でまとまったことを全体の場で交流すれば、さらに深まりが期待できます。こうして深まったものが、再び個人にフィードバックされるような授業展開が大切です。

個人 → グループ → 全体 → 個人

具体的アプローチ３　読書活動の充実を！



［学校質問紙］「第６学年の児童に対して、『朝の読書』などの一斉読書の時間を設けていますか」に「はい」と答えた学校の方が、教科に関する調査の平均正答率が高い傾向がみられます。

日常生活における読書活動につながる意図的・計画的な「読むこと」の学習を通して、進んで読書に親しむ態度を育てることが大切です。